

今週（7月17日から7月20日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は日銀当座預金残高が概ね380兆円台後半で推移する中、新積み期入り後の取り手サイドの様子見姿勢から調達量は限定的となり、無担保コールO/N加重平均レートは概ね▲0.070%台前半の落ち着いた展開となった。週初17日から▲0.086～▲0.040%近辺での出会いが続き、邦銀・証券業態の淡々とした調達が見られるのみで、週を通して取り急ぐ先は見られなかった。20日の3日積みにあたる取引でもレート水準に大きな変化はなかった。

ターム物に関しても積極的な調達は見られなかった。地銀業態のロール案件を中心に▲0.055～▲0.050%近辺で出会いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは20日に2W物・8,000億円がオファーされ、1,263億円（期落ち額1,311億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは積み期間が切り替わったことで、投資家の資金調達ニーズが落ち込み、レートを下げながらの推移となった。

週初17日のO/Nは▲0.10%前後での出会い、T/Nは▲0.11%前後での出会い。翌18日のT/Nはレートが低下し、▲0.14～▲0.13%での出会い。19日のT/Nは短国1年物の発行日にあたったものの、レートは更に低下し、▲0.15～▲0.13%での出会い。20日には短国3ヶ月物の発行が入ったことでややレートが反転上昇し、▲0.12～▲0.10%までの出会いとなった。

SCについては足元GCのレートが下がったことから、全体的にレートの低下が大きく見られた。ビッドが目立った銘柄は5Y134～135、10Y339～350、20Y163～164、30Y57～58、40Y11で、ビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、全般的に閑散としたマーケットとなったものの、GCレポレートが低位で推移した事もあり、9月末越えの銘柄中心に、強含みの展開となった。

17日に実施された短国買入オペは、5,000億円でオファーされた。平均落札利回較差▲0.001%、按分落札利回較差▲0.002%と小じっかりの結果となった。

19日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.145%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1440%、按分落札利回▲0.1420%と強めの結果となった。セカンダリーでは、▲0.16～▲0.147%と広いレンジでの出会いが見られた。

20日に実施された3M物の入札は、WI取引の▲0.163～▲0.16%での強めの出会いを受け、平均落札利回▲0.1579%、按分落札利回▲0.1523%と前回債からレートが低下する結果となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は週間償還総額が3,000億円程度に対して、週間発行総額6,000億円程度と発行超であった。20日の応当日においては発行量が伸びたものの、それ以外は特段のイベントも無く、週を通して落ち着いたマーケットとなった。連日の卸売業態による約1,000億円程度の大型発行が行われたことで、市場残高は17日時点において約半年ぶりに18兆円を上回った。

発行レートについては、引き続き業者の玉確保のニーズは旺盛であるため発行量が少ない銘柄や9月末越え物では強めの買いが散見された一方で、発行残高が積み上がっている銘柄においては0%近傍の出会いが中心となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
7/16（月）						
7/17（火）	22,697.36	0.035	112.39	△ 0.072	△ 0.108	3,868,000
7/18（水）	22,794.19	0.040	112.95	△ 0.072	△ 0.128	3,886,400
7/19（木）	22,764.68	0.035	112.75	△ 0.072	△ 0.141	3,885,500
7/20（金）	22,697.88	0.030	112.58	△ 0.072	△ 0.121	3,878,500

来週（7月23日から7月27日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
7/23 (月)					6月の米中古住宅販売
7/24 (火)	5月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)	40Y 4,000億円 7/25発行	交付税借入 10,500億円 8/1借入		
7/25 (水)					6月の米新築一戸建て販売件数
7/26 (木)	6月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	2Y 21,000億円 8/1発行			ECB定例理事会(金融政策発表) 6月の米耐久財新規受注
7/27 (金)	7月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 42,500億円 7/30発行	交付税借入 10,500億円 8/7借入		4-6月期の米GDP速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/23 (月)	500	1,900	2,400	全店共通 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完	▲ 1,300 ▲ 300 ▲ 100 300	1,300 100	0	2,400	TB3M発行▲43200償還44200 流動性供給▲4000
7/24 (火)	▲ 1,000	1,000	0				0	0	交付税借入▲10500期日10500
7/25 (水)	▲ 1,000	7,000	6,000	社債買入		1,000	1,000	7,000	40Y発行▲4000
7/26 (木)	▲ 2,000	▲ 2,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	交付税借入▲10500期日10500
7/27 (金)	▲ 1,000	2,000	1,000				0	1,000	
週 間 合 計	▲ 4,500	9,900	5,400	—	▲ 1,400	2,400	1,000	6,400	

7/23は日銀予想、7/24以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、引き続き低調な資金調達ニーズの中、無担保コールO/N加重平均レートは今週と同水準での推移が見込まれる。

レポ市場は、引き続きオファーサイドの資金調達ニーズが不安定な状態が続くと見られ、▲0.10%をやや下回る水準で振れ幅のある動きになることが予想される。

短国市場は、27日に3M物の入札が実施予定となっており、堅調な相場が続くか注目される。

CP市場は26日にCP等買入オペが2,000億円で実施予定となっている。市場残高が増加する中、オファーが小規模であるため、引き続き僅かなマイナスレートでの決着が見込まれる。また、27日は月末応当の入札日となるため期内物の発行を中心に活況なマーケットが見込まれる。18日時点における金融法人を除く事業法人(ノンバンク・一般事業法人含む)の残高が約15.5兆円と最高水準で推移しており、7月末の残高がさらに積み上がるようであれば事業法人の月末残高としては過去最高となる。

主要なイベントとしては、海外では26日のECB定例理事会、27日の4-6月期の米GDP速報が挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされようようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入